

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

圏域人口：56,114人 高齢者人口：13,374人（克明2,905人 桜塚2,408人
熊野田2,644人 南桜塚2,912人 泉丘2,505人）
高齢化率：23.83%（克明27.44% 桜塚24.15% 熊野田23.22% 南桜塚22.86%
泉丘21.91%）

中部圏域の特性について：豊中市の中心に位置し、阪急豊中駅、岡町駅、曾根駅各駅前の商業地域、戦前から高度成長期にかけて開発された住宅街の克明、桜塚、南桜塚各校区、農村地域だった熊野田校区、マンション群や団地を持つ泉丘校区の5校区から成る。校区間による高齢化率や自治会加入率（71%～35%）の差と同じように、校区により大きくニーズも異なるため、各校区の実態に合わせた取り組みが必要である。

センターの取組方針や特徴

【センターの運営方針】

地域包括ケアシステム構築に向け、「地域に住む、支援が必要な高齢者を一人も孤立させない」という心構えを持って取り組んでいる。
「高齢者になっても安心して暮らせるまちづくり」を最終的な目標とし、地域支援を推進していく。

【特に力を入れて活動している点】

「高齢者になっても安心して暮らせるまちづくり」を実現するために、絶えず地域に出向いて、的確に状況を把握し、各校区の持つ特性や強みを活かすこと。

【活動の中での課題やその解決策】

問題を抱えていても自ら声を上げない、誰からも気づかれない高齢者が地域に存在している。孤立した人を、いかにして「きめの細かいセーフティネットを構築」し、逃さないようにするかが課題となっている。「きめ細かいセーフティネットの構築」には、人や組織や機関とのつながりを増やし、その1本1本の線を太くする必要があり、セーフティネットの網の目からこぼれ落ちない体制を作らねばならない。より細かいネットワーク作りのために絶えず地域に出向き、住民との交流により点を線に変えることが解決策に通じると考える。

総評

常に地域に足を運び状況を確認することで、支援対象者の実態把握を行うなど、地域課題の早期発見に取り組んでいます。また、会議において全職員で情報共有を行い、各事業の振り返りや全体の進捗状況を確認し、目標達成に向けて見直しを行っています。

前回の外部評価の内容を踏まえ、記録の整備については、おおむね改善されていますが、高齢部会の開催において、CSWと打ち合わせ等をした記録を残しておくことが望まれます。

好事例

圏域内の社会資源についてまとめた、「介護予防おでかけマップ」を作成し、1年に1回見直しを行い、市民や事業所等に情報提供しています。また、市民向けに月1回司法書士による「高齢者のお悩み相談会」を平成29年から継続的に開催し、定着してきています。

緊急時の対応手順については、内容が詳細に書かれており、誰もがわかりやすいものとなっています。